

# 『八十をとめらぐ 汲みまがふ』

もののふの  
八十をとめらが汲みまがふ  
寺井の上の堅香子の花

## 杜の神社 (二)

茂生 片柳 長者一所センタービジター

これは万葉集に詠  
まれている大伴家持  
の歌です。この歌の  
中にある堅香子（か  
たかご）の花とは、  
片柳  
カタクリであると言  
うのが通説になって  
います。  
ユリ科の多年草植物  
であるカタクリは、  
以前日本の各地に広  
く分布し、地下茎か  
ら取れる澱粉は片栗  
粉の原料に使われて

まれている大伴家持  
の歌です。この歌の  
中にある堅香子（か  
たかご）の花とは、  
片柳  
カタクリであると言  
うのが通説になって  
います。  
ユリ科の多年草植物  
であるカタクリは、  
以前日本の各地に広  
く分布し、地下茎か  
ら取れる澱粉は片栗  
粉の原料に使われて



地下茎に貯えられ  
た時初めてつぼみ  
を持った芽を出し  
ます。花芽はつぼ  
みを二枚の葉に包  
まれたままで地上に出  
て、葉が  
開くとその間から堅  
いつぼみが  
現われます。最初上  
を向いてい  
たつぼみも開花が近  
づくにつれ  
て下を向き始めつぼ  
みの色も桃  
色に変化していきま  
す。

いたほど人々の身近  
に生えて  
いた植物です。しか  
し現在では生  
えている場所も限  
られ、貴重な  
植物となつてしま  
いました。そ  
のカタクリが神社  
の杜の中に群  
生し、早春の林床  
を紅紫色の花

四月中旬、明るい  
林床は紅紫

林を構成する上層  
の樹木が葉

で彩ります。

三月下旬になると  
カタクリの  
活動が始まります。  
明るい林床  
のあちこちからは  
茶紅色の尖つ  
た芽を出し、そ  
の芽は次第に淡  
緑色で紫斑のある  
葉に広がります。  
これら葉は大小  
様々な大き  
さの物があ  
り、発芽してか  
ら

色カタクリの花で  
染まります。  
六枚の花びらは  
そりかえり内側  
の紫色の波型模  
様が美しさを添  
えます。美しく  
目立つ花は、本  
来人々を楽し  
ませるためだけ  
でなく、蜜のあ  
りかを昆虫に知  
らせて呼び寄せ  
る信号ともなつ  
て

を広げ林床に日光  
が届きにくく  
なる頃カタク  
リの短い春は  
終わり、地上か  
ら姿を消してし  
まいます。地上  
に芽を出してか  
ら二ヶ月余りで  
カタクリの地上  
での生活は終  
わり、後の十  
ヶ月は地下に  
潜り来年度の  
準備をしてい  
ます。カタク  
リの春は足早  
やに訪れそし  
て足早に去つ  
てゆくので

### あとがき

例年になく雪の多い  
山上でしたが、自然  
は正直に木々は  
今一斉に芽吹き  
はじめました。  
一、二号発刊にあ  
たり、三橋健  
先生と新たに  
斎藤慎一先生  
の玉稿を賜  
わり感謝申し  
上げます。

三、四号発行は  
十月の予定です。  
ご講読とご寄稿  
をお待ち致し  
ております。  
(片柳記)

平成六年四月二十五日発行

編集 武蔵御嶽神社

印刷 (株)成和印刷

表紙写真 埼玉県和光市 末棟 義彦

電話 〇四六(七)八五〇〇